

第1回佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会 会議録

日 時：令和5年5月31日（水）

午前10時～11時55分

場 所：佐久市役所 南棟3階会議室

出席者

協議会委員（19名）：

原 拓男委員、宮島 卓朗委員、塚田 直道委員、北垣内 博委員（窪田教頭代理出席）、
芝野 崇委員、小林 新治委員（篠原教頭代理出席）、佐藤 元昭委員、山中 美佳委員、
伊坂 倉一委員、大塚 寛美委員、篠原 一郎委員（岡田副理事長代理出席）、荻原 和
章委員、土屋 岳委員、原 暁生委員、澤尾 光弘委員、沼田 浩人委員、塩川 元弘委
員、荻原 周子委員、柿沼 宏直委員

事務局（9名）：

吉岡教育長、堀籠主幹指導主事

依田社会教育部長

スポーツ課 木内課長、三浦スポーツ推進係長、神津

文化振興課 原田文化振興係長、太田

スポーツ協会 井出

1 開 会

2 あいさつ 教育長より

3 自己紹介

4 協議会の設置及び正副会長の選出について【資料 1-1, 2, 3】

進行：木内スポーツ課長

事務局説明後、会長及び副会長の選出

会 長：原 拓男

副会長：伊坂 倉一

5 協議事項

進行：原会長

(1) これまでの経過と今後のスケジュールについて【資料 2-1, 2】

(2) 教職員の兼職兼業について【資料 3-1, 2】

事務局説明後、(1) (2) についての質疑

【委員】

指導者の確保について、人材バンクを通して周知・募集を考えているとのことだが、資料 2-1P4 にあるように、募集した人材（兼職兼業希望の教員）はスポーツ団体に入る方向なのか、入らないのであれば佐久市の基本的な方針とズレがあるのではないかと？

(事務局)

人材バンクについては現在模索している段階であり、今後佐久市の方針とすり合わせをしていく。

【委員】

基本的に事務局は地域に置かれ、学校はそれをサポートする。連携はこれから調整するというのでよいか。学校に事務局が置かれるということになると、逆に教員に負担がかかることになってしまう。

(事務局)

窓口を学校にお願いすることにはなると思われるが、人材バンクなど負担の増える事務局を置くことはない。ただ、練習場所の確保について協会等との擦り合わせはしてもらうことになる。

【委員】

窓口を行うとしても、事務局を上回る大きな負担があるようではこの会議で目指す趣旨が変わってきてしまう。他地域では窓口の負担が増大しているケースがあると思うので、事務局が学校の外にあって大きな負担にならないような地域移行としてもらいたい。

(事務局)

学校に負担がかかるようでは本末転倒になってしまうので、学校に負担をかけない方法を探っていく。

【委員】

去年の準備会で、剣道・柔道などの個人種目は地域移行をしやすいのではないかとこの意見があったが、モデル事業としてのバスケの具体的な事業はあるのか。

(事務局)

浅間中メインで動いているレッドコメッツというチームがあり、学校の枠を越えてウィンターカップを目指して活動している。地域移行のモデルになるのではないかと考えている。他校からも参加があり、また3年生が引退後にも活動している。

【委員】

県の協会では中体連との連携をしながら進めているが、強いチームを作るのはダメだということになっている。ウィンターカップを目指すということは、強いチームを作るということになるが、協会としてやっているのは中体連レベルの大会であり、そのなかで地域移行をやっていくとすれば難しい話になってしまう。

(事務局)

1月に中体連で各競技の参加条件などが公表され、新聞でも情報が出ている。各競技での細かい状況があるので、部会で検討して協議会にフィードバックしたい。

また、部会で意見交換させてもらいながら情報共有して進めさせてもらいたい。

【委員】

指導者が中学校の先生だけになってしまうと、手が足りなくなってしまう。考え方としては、大会うんぬんよりも学校の部活としてやっているところに良い指導者をつけることができるか、ということが基本になると思う。

【委員】

中学校単位で何校か集まって部活を行うとなると、拠点をおいて指導者を派遣して、とするのが団体スポーツとしては一番混乱がないと思われる。

【委員】

資料 2-1P4 について、休日の部活動から段階的に地域移行していくということだが、令和7年度末までに全ての部活動を地域移行完了するということか。

【委員】

資料 2-1P5 で、その他の競技についての検討・協議とあるが周知の仕方によって、不安感が増したりということになる。モデルケース以外のことも一緒に考えていかなければならないと思う。

(事務局)

モデルケース以外の競技については、部会を設けて協議を進めていく。令和7年度末を目標にして、モデルケースの進捗も共有しながら各競技の状況に合わせて取り組んでいく予定。

【委員】

資料 3-2 について、有償ボランティアが一番良いとのことだが、謝礼はどこからでるか。各競技団体が二の足を踏むことになるのではないか。

(事務局)

周辺の市町村でも動いていることであるが、資料 2-1P4 (2) 具体的な方法について、費

用弁償については原則保護者対応でお願いしたいと考えている。国・県から支援等あれば活用していく。

(3) 各中学校における部活動指導員の現状等について【資料 4-1, 2】

事務局説明後、質疑

【委員】

財源、報酬に関係する展望はどうなっているか。

(事務局)

部活動指導員は会計年度任用職員の立場になっており、時給 1600 円というのは国の上限である。単価については全庁での調整が必要になってくる問題であるので、ご理解いただきたい。

【委員】

時間外の部分について、割増しで支払いをするのは難しいのか。

(事務局)

佐久市だけの問題ではないため、県や周辺地域とも整合を図っていく。また教員の働き方改革において、部活動指導員は時間外を払えば働かせても良いのか、という問題も出てくるので、慎重に考えていかなければならない。

【委員】

私の経験について話すと、13年間岩村田高校で外部指導者として指導してきたが、そのときは謝礼なしであった。長聖高校にも行ったが、講師の立場でということであり、月に1万円の謝礼で、新人戦で優勝したあとは増額した。指導者は謝礼が目的ではないとは思いますが非常に難しい問題である。

資料 4-2 について、外部指導者及び部活動指導員の人数が載っているが、皆さんは、賃金については把握しているか。

【委員】

バレーボールについて、部活動指導員は市の雇用なので賃金は支払われているが、外部指導者については出ていないと聞いている。

【委員】

バスケットボールについては、お金のことについては分からない。把握していきたい。

【委員】

サッカーについては個人に支払われているので、協会では把握していない。

【委員】

自分の事しか分からないが、南佐久の方では教育委員会から報酬がくる。御代田・軽井

沢も教育委員会。小諸についても、出どころは教育委員会とのことだった。佐久市では個人でいただいているが、どこから出ているかは不明。

(4) 意見交換（～午前11時50分）

【委員】

ここ何年も生徒数が減ってきているが、市内では団体競技については単独の小学校でチーム編成をするのは難しくなっている。いくつかの小学校から集まってスポーツ少年団等で活動しているのが現状。それぞれのスポーツ少年団のチームで小学校においても棲み分けが始まっていて選抜チームのようになっており、今後地域移行が進んでいく段階でこれらのチームが中体連の大会に参加するようになっていくと思われるが、それは果たして健全な子どもたちの体力向上へ寄与していくのか危惧される。この協議会などで把握し、チェックしていく必要がある。

【委員】

レッドコメツツの事例のように、数年のうちに想定される事態で、中学校の部活は競技志向ではなく楽しむものになるのではないか。ミニバスなどではいくつかの小学校が一緒になっており、どこのチームに参加してもよい状況。

【委員】

よいチームであれば県からも来る。小諸・軽井沢などは当たり前になっている。佐久市の少年少女球技大会について、「佐久市在住」というのが出場の条件になっているとチームや大会が成り立たなくなってしまう。

【委員】

要綱の見直しが必要かもしれない。

【委員】

今はだいぶ状況が変わってきている。スポーツ協会でも議論を進めようとしている。

【教育長】

折角なので他市の状況についてわかるようなら、是非教えてもらいたい。

【委員】

長野市の小学校にいたが、マーチングバンドがあった。連絡会というような形だったが、このように協会の方たちと話をすることはなかったもので、佐久市は合意形成をしているのだと思うが、このメンバー以外の市民や企業の方にどこまで伝わっているか分からない部分があるので、広報的なところを考えていくことをお願いしたい。

【委員】

前任は小諸市の小学校だったが、地域移行については課題ではあったが特に動きはなか

った。合唱部があったので外部の先生に来てもらったり市の会計年度任用職員に指導者になってもらっていた。外部指導者には合唱部の予算から謝礼を支払っていた。それぞれの学校でよいやり方でやっていた状況。

【委員】

3年前は北信の生涯学習課におり、スポーツの担当だったので地域移行にはかなり関わっていた。坂城町が1町1校であり、スポーツ少年団と上手く連携をとっていた。少年団は18歳まで活動できるので、部活の指導者と少年団の指導者で、部活の顧問がやりたいというところはやってもらい、経験がないという場合は少年団の指導者が中心となりやっていた。また、長野市の北にはかなりのスポーツクラブがあり、それらが連携して各競技について中学校を拠点化して上手く進めていた地域もある。更埴ではスポーツ協会が中心になっており、また学校やスポーツ団体がやるところもあり、軸をどこにするか検討しながら進めている。地域移行については正解がなく、地域の実情に合わせて進める必要があるので難しい問題。指導者については何を持っていて指導者とするかが難しいが、誰に部活動指導員をお願いするかといったときに、地域の方をお願いするしかないが、なかなかライセンスを持った方はいない。中学校高校で部活経験のある方に校長と面談をしてもらいお願いをしている。指導者の育成やどのような方を指導者にするかは全国的に問題であると思う。

【委員】

昨年まで小諸にいたが、佐久市は進んでいると思う。違う視点からの話になるが、部活動の意義について。部活動に邁進してきて、子ども達とやってきて楽しかった。勝利至上主義が心配点として出ていたが、部活の具体的な目的は勝つことであったが、真の目的は他にあるという事を伝えてきた。自分に勝つことや厳しくすること、チームワークなども重要。教員の働き方改革に軸足を置くとすれば、窓口の関係はしっかりやってもらいたい。

【委員】

長野市の川田小にいたが、若穂中学校は3つの小学校から集まる。地域移行が進んで先生が部活動に出なくても指導してくれる方がいて、負担がかなり減ったという話を聞いた。若穂の子どもは若穂で育てるという理念を地域の方が共有していて、育成会などの方が携わっていて自分の子供が卒業したらやめてしまうのではなく、代々携わってくれる方がいるためかなり連携しているような印象を受けた。

【委員】

今年度小諸方面から赴任してきた先生から、外部指導者に報酬が非常に少ない状況なので、保護者からお金を取って指導者に支払うことを考えないかとの話があったが、以前はそのようにしていたとのことだった。部活によってそのような差があるのは良くない。また、勝利至上主義にならないこと、会費負担、部活の為の移動などについて差がないところを目指していけたらありがたいと思う。

【委員】

望月中学校は7つの部活があるが、専門で指導できる先生は2名だけ。部活動指導員が2名おり、その他の部活については全て外部指導者が入っている。専門的な方に見てもらえるというのは非常にありがたいが、部活動指導員には報酬がでるが、外部指導者はほぼボランティアというのとは何かしていく必要があると思われる。また、部活動指導員は休日に顧問の代わりに指導できるが外部指導者はできないことになっているので、そこが進んでくると先生方の負担軽減になったり、働き方改革が進んでくるのではないかと思う。保護者からの要望の多さは顧問の負担の一つとなっている。地域移行で学校の先生が楽をするのではないかと考えている方もいるので、市全体で情報発信をしていって地域移行について理解してもらう必要がある。

【委員】

スポーツ推進委員の皆さんにどんな資格を持っているか調査してもらったが、スポ少に関わっている人は多少いたが、指導を出来る人は非常に少ない。自分の子供が小学校に上がるときに中学校まで指導できる資格を取った方もおり、この方は自分の子供が卒業した後も指導できるようにしているようにと、周りに働きかけもしてくれている。しかし現状は非常に人数が少ないので、推進委員ができることを模索していきたいと考えている。

6 その他

【教育長】

今日の協議会について何点かまとめとして話したい。

まず、何より部会をやっていく。皆さんに人選は相談しながらしていきたいと考えており、協議会の場で情報共有もしていく。

2点目として、広報についてだが、もう少し詰めていっていずれ今年中には新聞を呼ぶことを考えており、これが決まってこのように考えている、など報告する。

3点目として、費用面については保護者負担が基本ということであるが、外部指導者については部活動指導員にしていく必要があるのではないかと考えている。

4点目として、本日の主たる議題として教員の兼職兼業があるが、是非校長先生方には教職員一人一人の勤務時間の管理をお願いしたい。今は完全に勤務時間を把握できるので日頃からしてもらい、部活動に熱心な先生もそうでない先生もいるので二分されないように配慮をしてもらいたい。生きがいだと考えている先生も負担だという先生もいる中で、会議の内容だけでなくこのようなことについても伝えてもらえればと思う。今後も協議会を進める中で、折々で広報などもしていければと思う。

7 閉会